

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
 「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
 「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合もあります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした**地域志向型科目**を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と 2018 年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムが COC+（プラス）事業です。

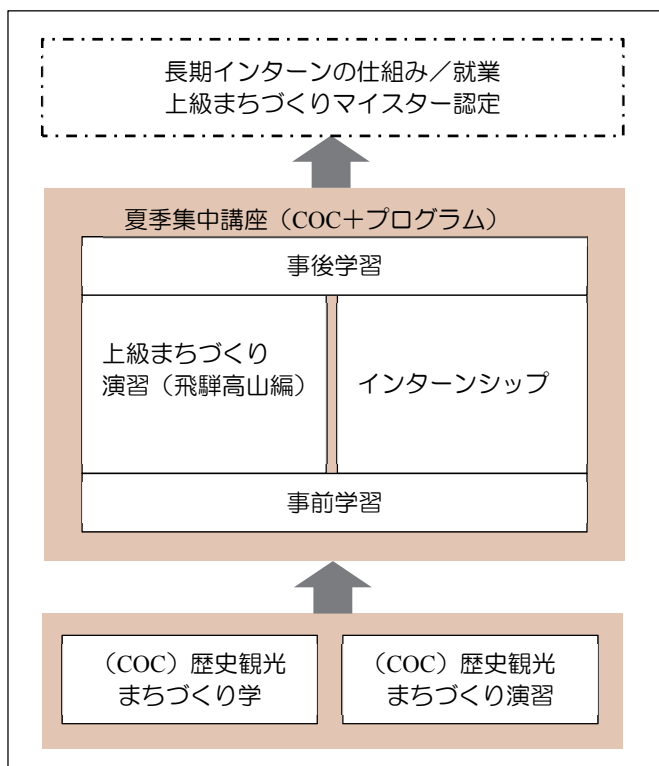
2018 年度 COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学 COC 事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2018 年度は、名古屋学院大学が COC 事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC 事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市における COC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COC カリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC 事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

現代社会学部 現代社会学科

教育目標

私たちの社会は、いま、安定と成熟のなかにありながら複雑化・多様化が進み、その持続可能性を問われて大きな転換に向かっています。現代社会学部は、こうした現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識、ならびに現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力をもつ人材を養成することを教育目標とします。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

現代社会学部現代社会学科の教育目標は、「現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識、ならびに現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力をもつ人材を養成すること」です。

現代社会学科に所属する学生は、上記の教育目標を達成するために設定された学科のカリキュラムのもとで履修し、学修することをおして以下のような能力が獲得できます。これにあわせて、卒業に必要とされる所定の単位数と要件を満たした学生には、現代社会学部から「学士（現代社会）」の学位が授与されます。

知識・技能

- ① 社会学・経済学・法学など現代社会を理解するために必要な基礎知識とそれらを包み込む幅広い基礎的教養を身につけることができる。
- ② 現代社会における〈人間社会と心理〉、〈現代経済と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉という4つの基本分野に関する専門的知識を修得できる。
- ③ 現代社会の動きを的確につかみ、それをリサーチしてレポートをまとめることができる。
- ④ 現代社会やビジネス世界で求められるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

- ⑤ 現代社会がもつさまざまな側面にアプローチし、それらを洞察し、的確に判断できる。
- ⑥ 現代社会を生き抜き、その課題や困難に立ち向かうことのできる課題発見・問題解決型能力を修得できる。

主体性・多様性・協働性

- ⑦ 多様な社会で自分と他者を生かせるよう積極的に行動し、社会や地域に貢献できる。
- ⑧ 「社会を知り人を想う」ことで新たな社会を創造しようとする精神を身につけることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

上記のような教育目標のもと、ディプロマ・ポリシーで設定した能力を獲得させるとともに「学士（現代社会）」の学位を取得させるために、以下のような教育内容、教育方法および学修成果の評価に関する基本方針にもとづき、現代社会学科のカリキュラムを編成し、授業を実施します。また、カリキュラムの体系性ならびに各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラム・マップなどで明示します。

教育内容

- 1) キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成、社会生活に必要な知識や技能の修得、成熟した市民として必要な教養の獲得を目標とした《NGU 教養スタンダード科目》を学びの基礎とし、さらに現代社会をよく知り、現代社会を調べ、課題を発見する力を養うための基礎づくりとして《専門基礎科目》を厳選して配置します。
- 2) 現代社会学科を構成する基本分野として、〈人間社会と心理〉、〈現代経済と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉という4つを設定し、これらをもとに《基幹科目》と《展開科目》に必要な専門科目をバランスよく配置してカリキュラムを編成します。
- 3) 《基幹科目》には、社会学ならびに経済学の主要分野を念頭においたうえで、上記のような4つの基本分野からそれぞれに厳選した専門科目ならびに現代社会の問題発見や課題解決に活用できる実践的な知識や能力を身につけることのできる「プロジェクト演習 A・B」を配置します。
- 4) 《演習科目》、「プロジェクト演習」および「中長期インターシップ」などをとおして、座学だけにとどまらず、関心の高い分野に対し、課題発見から解決方法そして実践までを一貫しておこなう「アクティブな学び」の場や機会を数多く提供します。

教育方法

- 1) 現代社会学科の教育目標を確実に達成し、カリキュラムでの学修成果が学生一人ひとりに実践的な力となって身につくように段階的・系統的な学修を基本としています。そのため、1年次の春・秋学期から4年次にかけて《専門基礎科目》、《基幹科目》、《展開科目》および《演習科目》を各段階に応じて適切に配置するとともに、系統的学修のガイドとなる3つの履修モデルを提示します。
- 2) 基本となる段階的・系統的な学修とともに、コンパクトな履修パッケージとして「現代社会を学ぶアイテム」をいくつか用意することにより、具体的なテーマや課題の提示を通じてさまざまな角度からの“現代社会”への積極的なアプローチを促します。
- 3) 「PBL 型授業」を積極的に活用し、現代社会の現場を体験できる多彩なフィールドワークを提供することで課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力を育成します。
- 4) 4年間にわたる一貫した少人数編成の《演習科目》により、学生一人ひとりの個性に合わせた、ていねいな学修・生活指導のできる態勢を確保します。また、定期的に「履修ガイダンス」や学修のためのガイダンスを実施し、学生が期待どおりの学修成果を達成できるようきめ細かい履修指導を行います。

学修成果の評価

- 1) 授業科目の評価は、原則として平常点および試験等の総合評価により行われます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目のなかで必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。とりわけアクティブ・ラーニングでは、ループリックでの評価を行います。
- 3) 「現代社会演習1・2」における研究成果である論文の作成・発表を「卒業研究（必修）」として評価するとともに、これを最終的な学修成果として重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価します。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

求める学生像

現代社会学科では、建学の精神「敬神愛人」のもと、この学科の教育目標を理解し、それに向かって意欲的に学び、かつ積極的に行動する人、具体的には、以下のような学生を広く受け入れます。

- 1) 安定と成熟のなかにありながら複雑化・多様化が進み、その持続可能性を問われ大きな転換に向かっている現代社会に広く関心をもっている学生
- 2) 現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識を合わせてバランスよく身につけたいと望んでいる学生
- 3) 現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力を身につけたいと考えている学生
- 4) 獲得した知識や能力を生かして社会や地域に貢献しようと志し、社会に新たな価値を創造して次代の社会を切り拓こうとする学生

入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 高等学校の教科において、現代社会を学ぶための基礎として必要となる基本的な知識や技能
- 2) 基礎的な知識や技能にもとづき、現代社会に関する自分の考えをまとめ、他者に伝えるために必要な思考力・判断力・表現力
- 3) 現代社会に関わるさまざまな学修や活動の場と機会において、主体性をもって多様な人びとと協働して学ぶ態度

入学者選抜

現代社会学科は、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、この学科に関わる適性、多様な学習や活動で身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本方針とし、以下のような入学試験を実施します。

1) 学力試験

本学独自の学力試験、または「大学入試センター試験」の成績にもとづき、この学科での学修に必要な基礎学力を有すると評価した者を入学者として選抜します。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文などにより、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、この学科に関わる適性や意欲などを総合的に評価し、入学者を選抜します。

3) AO 試験

第1志望の者を対象に、書類審査（調査書・事前課題）ならびに授業・討議・試験の内容や成果により、この学科での学修に必要な基礎的な理解力・考察力・協調性・表現力などを総合的に評価し、入学者を選抜します。

カリキュラムの概要

現代社会学部現代社会学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》と《専門科目》で構成され、また《専門科目》の中に《専門基礎科目》、《基幹科目》、《展開科目》、《関連科目》および《演習科目》という科目群が設定されています。《演習科目》については以下で詳しく説明するとして、ここでは、それ以外の科目群の概要について紹介します。

① 専門基礎科目

この科目群は、現代社会学部で《専門科目》を学修する上で必要な基礎的知識と能力・方法・態度を修得するための7つの《専門科目》で構成されています。「社会学入門」、「ミクロ経済学入門」、「マクロ経済学入門」、「法学入門」および「地域政策入門」の5科目は、社会学、経済学、法学、政策・地域の各領域から導入科目として厳選したものであり、すべて必修になっています。

また、「現代社会入門」は、専門的な学修に向けた導入として、現代社会を学ぶ意義、ならびに現代の時事問題に関する基礎知識を理解することを目的とした科目であり、「社会リサーチ入門」は、現代社会の現状や課題をリサーチする基礎的な方法や態度、さらに課題発見・問題解決型能力を身につけることをめざした基礎的科目です。

② 基幹科目

この科目群は、その名のとおり現代社会学部の基幹となるもので、カリキュラムを構成する 4 つの基本分野である〈人間社会と心理〉、〈現代経済と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉から厳選した 15 の〈専門科目〉ならびに「プロジェクト演習 A・B」で編成されています。これらはすべて選択科目ですが、卒業要件では「選択必修」になっており、可能なかぎり履修し、単位を修得することが望ましい科目に位置づけられています。

「社会学理論」、「社会学史」、「地域社会学」、「産業社会学」、「家族社会学」および「社会心理学」は、社会学の主要な分野を意識した上で、現代社会学部のカリキュラムに必要な基本科目を厳選したものです。「文化人類学」、「社会政策論」および「経済社会学」は、それらを補完し、人間・政策・経済につなぐもので、〈展開科目〉でより専門的な学修を進めるために必要な基本科目です。「現代経済分析」、「経済政策論」、「現代産業論」および「日本経済入門」は、経済学の基礎や実用的な経済知識を身につけ、産業・企業・政策・地域などについて学修するための基本となる科目です。また、「民法入門」は、社会制度や政策の基礎となる現行法の基礎を学ぶ科目であり、「名古屋都市論」は、本学の名古屋キャンパスが立地し、現代社会学部の主要なフィールドとなる大都市「名古屋」について学ぶ科目です。

さらに、「プロジェクト演習 A」と「プロジェクト演習 B」は、現代社会に対する問題意識や研究関心を涵養するとともに、課題発見・問題解決型能力を育成し、かつ実社会の具体的な課題や問題解決に活用できる実践的な専門的知識や能力を身につけることをめざした科目です。

③ 展開科目

〈展開科目〉は、カリキュラム表で確認できるように、現代社会学部の 4 つの基本分野、つまり〈人間社会と心理〉、〈現代経済と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉によって編成されており、それぞれには、関連する領域から厳選された〈専門科目〉が配置されています。

〈人間社会と心理〉は、社会の人間の側面や心理的要因から現代社会にアプローチし、人が人間らしく生き、人間の生への配慮や支援のできる社会づくりに必要な知識と能力を身につけるための科目群によって構成されており、そこには、社会学、経済学、経済社会学、社会政策論、社会福祉学および人類学などから採用された 14 の科目が配置されています。〈現代経済と企業〉は、経済学の体系を念頭におきつつ、成熟した現代社会や社会生活を支える経済を社会の中に位置づけ、そのしくみや働き、その人間社会にふさわしいあり方について学ぶための科目群によって編成されており、なかでも、広く経済社会に関わりのある科目ならびに経済を担う産業や企業に関する科目が多く配置されています（計 18 科目）。

また、〈社会制度と政策〉は、現代社会を動かす大きな要因として、社会生活を制度的に基礎づける法律と社会を運営する行政や政策、その現実や本来のあり方について学ぶための科目群によって構成されており、なかでも、社会生活を制度的に基礎づける法律に関する科目と現代社会を運営する行政や政策にかかわる科目が多く配置されています（計 16 科目）。〈社会生活と地域〉は、人間の社会生活やそれを大きく規定する地域から現代社会にアプローチし、社会の中で他者との協働により自分の生活を自分らしく構築し、社会を動かしていく上で求められる知識と能力を身につけるための科目群によって編成されており、そこには、社会学、経済学、法学、社会政策論、人類学、地域政策論および都市政策論などから採用された 15 の科目が配置されています。

④ 関連科目

この科目群は、現代社会学部がめざす特別な教育目的のために必要とする〈専門科目〉によって編成されたもので、そこには、次のような 2 つのカテゴリーがあります。

〈スキル&社会調査〉には、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させるための「デジタルプレゼンテーション」と「データ表現技法」、ならびに「社会調査士」の資格認定に必要な科目が配置されています。「社会調査士」資格の取得について、詳細は P77 の 5) で説明しますのでよく確認してください。

また、〈留学&インターンシップ〉には、現代社会学部が推奨する「短期留学プログラム」での学修を単位認定するための「国際理解 1〜4」、ならびに特色あるプログラムとして推進する「中長期インターンシップ」での学修を単位認

定するための「中長期インターンシップ 1・2」が配置されています。「中長期インターンシップ」についても、詳細は P77 の 3) で説明しますのでよく確認してください。

1 年生では、「基礎英語 1・2」および「英会話 1・2」が必修科目となっています。2 年生では、各自の希望により、次の 8 つのグループの中からひとつ（2 科目 2 単位分）を選択しますが、卒業要件として必ず単位の修得が求められます。よく考えて科目の選択をしてください。

2 年次にどの科目を履修するかは、1 年次の秋学期に CCS で希望調査をおこないます。教務課より CCS で連絡がありますので、確認漏れがないよう注意してください。

選択必修語学科目一覧（注意：卒業要件として必ず、同一科目の 1・2 の履修が必要）

- 実用英語演習 1・2
- 情報英語演習 1・2
- TOEIC 英語演習 1・2
- ドイツ語 1・2
- フランス語 1・2
- スペイン語 1・2
- 中国語 1・2
- 韓国語 1・2

英語圏への長期留学希望者や、英語のさらなるブラッシュアップを希望する学生は、英語科目（「実用英語演習 1・2」など）の継続的学修が望ましいと考えられます。英語圏以外の人々の考え方や生活風習について知りたい学生は、他の言語の学修にトライしてみてください。

特色ある教育プログラム

1) 「現代社会を学ぶアイテム」

以下の表が、現代社会学部が用意した、現代社会へアプローチする「7 つのアイテム」と各アイテムを構成する主な科目です。2 年次から 3・4 年次へ、《基幹科目》から《展開科目》へと専門的な学修を進めたり、「プロジェクト演習」の履修や《演習科目》の所属を選択したりするときに大いに参考にしてください。きっと、あなたらしい新たな学びを発見できると思います。

現代社会を学ぶアイテム	構成する主な科目
＜コミュニケーション&心理＞ 現代社会は、組織・情報・ネットワークをとおして心理とコミュニケーションにより動かされる。その本質と意味を理解する。	社会心理学、コミュニケーション論、メディア論、産業・組織心理学、集団行動の心理学、社会問題と心理、カウンセリング論 など
＜ライフプラン&家族＞ 社会・企業・地域の中で他者と協働して、家族とともに自分の生活を自分らしく構築できる力を身につける。	家族社会学、現代社会と人間、金融論、社会生活と法 1・2、社会保障論、ライフコース論、家族と法 など
＜観光プロデュース&まちづくり＞ 観光は、訪れる地に光を当て観ること。今、それをめぐって観光地と観光客がまちづくりをプロデュースする。	地域社会学、文化政策論、社会的企業論、メディア論、セルフプロデュース論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論 など
＜ヒューマンケア&共生＞ これからの人間社会は、ヒューマンケアと共生。人が人間らしく生き、それへの配慮や支援ができる社会づくりへ。	文化人類学、社会政策論、経済社会と倫理福祉社会論、ジェンダー論、ヒューマンサービス論 共生社会と法 など

<コミュニティデザイン> 人間の生活や地域にとって大切なコミュニティ。そのかたちや今後のあるべき姿について考え、デザインする。	経済社会学、労働社会学、環境社会学、生活誌の人類学、地域社会と法、地域コミュニティ論 など
<現代企業&イノベーション> 現代の企業は、たえずイノベーションをつづけ、経済や社会を革新する。その源泉・メカニズム・展開・未来を探る。	現代産業論、産業社会学、現代企業史、企業経済論、ものづくり経済論、起業経営論、企業研究1・2 など
<都市創造マネジメント> 都市：かぎられた地域に人口が集中した場や空間は常に創造的で魅力的。その秘密と経営手法をつかみ取る。	名古屋都市論、現代経済分析、地域経済論、行政学、公共経営論、情報社会論、都市政策論、都市デザイン論 など

2) 現代社会を体験する「アクティブな学び」

現代社会学部では、座学だけにとどまらず、関心の高い分野に対し、課題発見から解決方法そして実践までを一貫しておこなう「アクティブな学び」をカリキュラム・ポリシーとしています。《基幹科目》の「プロジェクト演習 A・B」では、課題発見・問題解決型能力の向上をめざして、学期ごとに現代社会のトピックスをテーマとした課題解決型の演習が展開されますのでぜひ受講してください。また、以下で説明する、3) 中長期インターンシップや4) 段階的・継続的に開催される教育イベントはもちろんのこと、4 年間をとおしての《演習科目》やその他の《専門科目》でも現代社会の現場や地域の実社会をまるごと体験できる多彩なフィールドワークを提供していきますので、積極的にかかわるようにしてください。

3) 「中長期インターンシップ」

現代社会学部では、現代社会を生きぬく上で求められる積極的な行動力を涵養するとともに、実社会における「就業力」を育成するために、2 週間以上にわたる就業体験を組み込んだ「中長期インターンシップ」を用意し、参加して実習を終えることのできた学生には単位を付与します。このインターンシップ・プログラムには、A 中長期間型（期間が2 週間を超え1 か月以上にわたり就業体験をおこなうもの）、B インターバル型（同じ受け入れ先で間隔をあけて複数回就業体験をおこなうもの）、C 滞在型（受け入れ先に滞在し、中長期間にわたり就業体験をおこなうもの）という 3 つのタイプが考えられますが、いずれの場合でも、インターンシップ実習の趣旨にもとづき、受け入れ先の希望や条件ならびに参加する学生のニーズを勘案し、両者をマッチングさせて各プログラムの詳細を構築し、実施することになります。折にふれて、学生による体験談の発表や受け入れ先の紹介、プログラムの説明や事前研修などの機会を設けるとともに、参加希望者の募集をおこないますので、奮って参加してください。

4) 段階的・継続的に開催される教育イベント

現代社会学部では、現代社会に関する研究意識を高めるとともに、課題発見・問題解決型能力の向上につながるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成するために、学生が主体的に参加できる学部主催の教育イベントを段階的に継続して開催するとともに、それ以外の教育イベントにも学部をあげて積極的に関わっていきます。現代社会学部に入っただけからには、授業科目・ゼミナール・学部で開催される各種教育イベントはもちろんのこと、大学で開催される全学的な教育イベントや学外で開催される各種イベントにも意欲的に参画・参加するようにしてください。

5) 「社会調査士」資格の取得

現代社会学部では、「社会調査士」資格を取得できる指定科目をカリキュラムの中に用意しています。社会調査士とは、社

会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象などを捉えることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。一般社団法人社会調査協会が指定する、①社会調査の基本事項、②調査設計と実施方法、③基本資料とデータ分析、④統計学、⑤量的データ解析あるいは質的な分析、⑥社会調査の実習、に関する科目の単位を履修すると、卒業時に資格を取得することができます。実習では、調査の企画から報告書の作成までにわたる社会調査の全過程をやり通さなければなりません、社会のさまざまな分野や場面で役に立つ資格ですのでぜひ取得に向けてチャレンジしてみてください。

6) 「ピアヘルパー」資格の取得

現代社会学部では「ピアヘルパー」資格を取得できる指定科目をカリキュラムの中に用意しています。

ピアヘルパーとは、心理学や社会福祉の知識を用いて、他者とのよい関係を構築できる技能を修得した人のことです。特定非営利活動法人日本教育カウンセラー協会が本学において指定する3つの授業「カウンセリング論」「社会心理学」「福祉社会論」の授業を履修して単位を取得すると、同協会が実施する認定試験の受験資格が得られ、試験に合格することでピアヘルパーの資格を得ることができます。

ピアヘルパーはこころの問題の支援者という意味ではカウンセラーとよく似ています。しかし、カウンセラーが問題発生後の対応を重視することに比べ、ピアヘルパーは日常から周囲とよい関係を築くことにより、こころの問題の発生予防に活躍すると期待されています。人とのかかわるための基本的な知識や技術を学ぶことは、自己理解や他者理解を深めます。コミュニケーションや心理、福祉に興味のある人はぜひ取得に向けてチャレンジしてみてください。

演習科目について

1) 演習科目（ゼミナール）とは

現代社会学部では、1年次～4年次の全学年にわたり、少人数によるゼミナール形式の演習科目を配置し、4年間一貫のゼミナール教育をおこなっています。大学ではよく「ゼミ」と呼ばれます。こうしたゼミナールは、1年次春学期に《NGU 教養スタンダード科目》で開講される「基礎セミナー」で始まり、さらに専門の《演習科目》には、2年次の「専門基礎演習」、3年次の「現代社会演習1」、4年次の「現代社会演習2」、そして現代社会演習での研究指導を受けて作成する「卒業研究」があります。

また、ゼミナールでは、大学・学部における学修のそれぞれの段階で、ゼミ担当の教員による指導のもと、自分の問題関心を深め、課題を発見し、研究や討論をとおして課題を解決しながら自分の能力を向上させていくことになります。その指導教員は、あなたにとって「クラスアドバイザー（クラス担任）」ですので、学修のこと、学生生活のこと、将来のことなど、何でもいいですから気軽に相談してください。また、その中では、指導教員との交流だけではなく、多くの友人関係が育まれますので、そうすれば、ゼミナールは、きっと、あなたにとって大学生活の大切な思い出になると思います。

2) 演習科目の履修にあたって

以下では、各演習科目＝ゼミナールの内容とその履修にあたっての注意事項などについて説明しますのでよく確認してください。

① 基礎セミナー

1年次春学期の「基礎セミナー」は、大学・現代社会学部での学修への導入・基礎教育であり、2年次以上の専門的学修の準備段階となる必修科目です。そこでは、名古屋学院大学に親しんでもらうとともに、大学での学修を体験的に理解し、大学生活に必要なアカデミックスキルを身につけてもらいます。なかでも、a) 大学での学び方、b) 文献資料の調査・検索のしかた、c) レジューメ・レポートの作成のしかた、d) 報告・発表やディスカッションの工夫、などのスキルや能力の修得は必須ですのでがんばりましょう。

② 専門基礎演習

2 年次の「専門基礎演習」は、1 年次に身につけた「学びの技法」を専門的学修や学問に有機的に結びつけることを目的としています。特に、3 年次以降の学修や専門的研究ならびに「現代社会演習 1・2」の準備や土台づくりとして次のような 5 つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力 b) 自分を表現する力 c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力 e) 実践や行動する力

このゼミナールは、講義で学んだ専門的知識を生かしながら、さまざまな問題について話し合い、議論をたたかわせ、現代社会へのアプローチを広げ、関心を深め、お互いに自分の課題テーマを見いだす場となります。ですから、ゼミナールの時間や活動には必ず出席しなければなりません。

③ 現代社会演習 1

3 年次から 4 年次にかけての「現代社会演習 1」、「現代社会演習 2」そして「卒業研究」は、現代社会学部での学修の総仕上げになります。まず 3 年次の「現代社会演習 1」では、ゼミナール担当教員の指導のもとで専門的学修をさらに進め、自分の研究課題を追究します。このときには、現代社会学部の特色である「現代社会を学ぶアイテム」や「アクティブな学び」が役に立つはずです。また、ここでは、「NGU 学生フォーラム：現代社会」参加に向けた作業、社会見学やフィールドワーク、ゼミ合宿やゼミ旅行、および進路相談や就職活動に向けた準備など、さまざまな行事やゼミ活動もおこなわれます。そして、終了時には、自分の研究課題についてまとめた研究報告書を作成します。この研究報告書を提出しないと、4 年次の「現代社会演習 2」を履修できませんので気をつけてください。

「現代社会演習 1」の履修について

「現代社会演習 1」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の 2 つの要件をクリアしていなければなりませんので、十分に注意してください。

- ① 2 年次の終了時点で、40 単位以上を修得していること
- ② 「基礎セミナー」の単位を修得していること

④ 現代社会演習 2 と卒業研究

4 年次の「現代社会演習 2」でも、ゼミナール担当教員の指導のもと、専門的学修の仕上げとともにゼミナールでの研究成果のまとめをおこないます。また、同時進行で、「卒業研究」に向けた論文の作成指導もおこなわれます。この指導のもとで論文を書き上げ、提出すると、「卒業研究」の単位が付与されます。この 4 年次のゼミナールでも、さまざまな行事やゼミ活動が展開され、さらに就職活動に対する支援や就職相談も継続しておこなわれます。

「現代社会演習 2」（「卒業研究」の指導も含む）の所属は、原則として「現代社会演習 1」からの所属を継続することになります。

履修モデル

現代社会学部は、以下のような３つの履修モデルを提示しますので、卒業後の進路や希望する就職先などを念頭に、履修する科目を選択し、系統的な学修を進めるための参考にしてください。

「民間企業」モデル					
将来めざす人材像	わが国の経済社会や中部圏の発展を支えるため、民間企業やビジネスの世界で生きる社会的教養と経済社会に関する専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（７科目のうち５科目 10 単位必修、残り 2 科目も履修指定） ● 基幹科目（経済に近い社会学分野、経済学・経済政策分野、法律・地域分野） ：社会学理論、地域社会学、産業社会学、社会政策論、経済社会学、現代経済分析、経済政策論、現代産業論、日本経済入門、民法入門、名古屋都市論 ● 展開科目（おもに＜現代経済と企業＞と法律・政策分野から選択し、履修） ：現代経済学、統計学、金融論、国際経済学、現代経済学、統計学、金融論、国際経済学、日本経済論、日本経済史、現代企業史、企業経済論、地域経済論、ものづくり経済論、起業経営論、社会的企業論、企業研究 1、企業研究 2、労働経済学、環境経済論、財政学、公共経営論、都市政策論、社会生活と法 1・2、商法、会社法 ● 関連科目 ：スキル系科目、＜留学＆インターンシップ＞ 中長期インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td>＜現代企業＆イノベーション＞</td><td>＜都市創造マネジメント＞</td></tr> <tr> <td>＜コミュニケーション＆心理＞</td><td>＜観光プロデュース＆まちづくり＞</td></tr> </table>	＜現代企業＆イノベーション＞	＜都市創造マネジメント＞	＜コミュニケーション＆心理＞	＜観光プロデュース＆まちづくり＞
＜現代企業＆イノベーション＞	＜都市創造マネジメント＞				
＜コミュニケーション＆心理＞	＜観光プロデュース＆まちづくり＞				

「社会性の高いビジネス」モデル					
将来めざす人材像	ソサエティや地域、人間関係、家族などの場面にかかわるビジネスや社会性の高い企業・組織で活躍できる専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（7科目のうち5科目10単位必修、残り2科目も履修指定） ● 基幹科目（社会学分野、経済学分野、法律・地域分野） ：社会学理論、社会学史、地域社会学、産業社会学、家族社会学、社会心理学、文化人類学、経済社会学、現代経済分析、現代産業論、日本経済入門 ● 展開科目（おもに＜人間社会と心理＞と＜社会生活と地域＞から選択し、履修） ：コミュニケーション論、メディア論、人間発達の経済学、労働社会学、経済社会と倫理、福祉社会論、現代社会と人間、ジェンダー論、ヒューマンサービス論、産業・組織心理学、集団行動の心理学、キャリアと人間発達、カウンセリング論、社会問題と心理、社会保障論、環境社会学、ライフコース論、情報社会論、生活誌の人類学、セルフプロデュース論、家族と法、地域社会と法、地域コミュニティ論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論、都市デザイン論 ● 関連科目（社会調査士の資格取得をめざす） ：＜スキル&社会調査＞、＜留学&インターンシップ＞ 中長期インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td>＜コミュニケーション&心理＞</td><td>＜ライフプラン&家族＞</td></tr> <tr> <td>＜ヒューマンケア&共生＞</td><td>＜コミュニティデザイン＞</td></tr> </table>	＜コミュニケーション&心理＞	＜ライフプラン&家族＞	＜ヒューマンケア&共生＞	＜コミュニティデザイン＞
＜コミュニケーション&心理＞	＜ライフプラン&家族＞				
＜ヒューマンケア&共生＞	＜コミュニティデザイン＞				

「公共・公益・民間非営利」モデル					
将来めざす人材像	公共機関、公益法人、NPOなどの民間非営利団体で活躍できる基礎的教養と現代社会に関する専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（7科目のうち5科目10単位必修、残り2科目も履修指定） ● 基幹科目（公共に近い社会学分野、経済学・経済政策分野、地域・法律分野） ：社会学理論、地域社会学、家族社会学、社会心理学、文化人類学、社会政策論、経済社会学、現代経済分析、経済政策論、民法入門、名古屋都市論 ● 展開科目（おもに＜社会制度と政策＞と地域・法律分野から選択し、履修） ：財政学、政治学1、政治学2、行政学、公共経営論、都市政策論、文化政策論、行政法、共生社会と法、社会生活と法1・2、商法、会社法、経済社会と倫理、福祉社会論、地域経済論、社会保障論、情報社会論、地域社会と法、地域コミュニティ論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論、都市デザイン論 ● 関連科目 ：スキル系科目、＜留学&インターンシップ＞ 中長期インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td>＜都市創造マネジメント＞</td><td>＜観光プロデュース&まちづくり＞</td></tr> <tr> <td>＜コミュニティデザイン＞</td><td>＜ヒューマンケア&共生＞</td></tr> </table>	＜都市創造マネジメント＞	＜観光プロデュース&まちづくり＞	＜コミュニティデザイン＞	＜ヒューマンケア&共生＞
＜都市創造マネジメント＞	＜観光プロデュース&まちづくり＞				
＜コミュニティデザイン＞	＜ヒューマンケア&共生＞				

卒業要件

卒業要件単位の修得

現代社会学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発		6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	14単位以上	
	教職※ ¹			
	言語とコミュニケーション		8単位以上	
	情報理解		2単位以上	
専門基礎科目 基幹科目	必修10単位を含む		32単位以上	80単位以上
展開科目 関連科目	人間社会と心理、経済社会と企業、 社会制度と政策、社会生活と地域、 スキル＆社会調査、留学＆インターンシップ		32単位	
演習科目		16単位		
自由選択科目(フリーゾーン)※ ²				10単位以上
合計				124単位以上

※¹ 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※² NGU教養スタンダード科目、専門基礎科目、基幹科目、展開科目、関連科目、
オープン科目を問わない自由な選択

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教文学	2		1	AV1102	
キリスト教と文学		2	2	AV2301	
キリスト教と文化		2	2	AV2302	
キリスト教倫理		2	2	AV2303	
キリスト教史		2	1	AV1301	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
発展セミナー		2	1	AW1301	
キャリアデザイン1a		2	1	AW1302	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1303	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
ボランティア学		2	1	AW1304	
ボランティア演習		2	1	AW1305	
インターンシップ1		2	1	AW1306	
インターンシップ2		2	1	AW1307	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	日本文学		2	1	AX1304
	日本文学史		2	1	AX1305
	心理学概論		2	1	AX1306
	文明論		2	1	AX1310
	宗教と人間		2	1	AX1311
	聖書と人間		2	1	AX1312
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1313
社会理解	臨床心理学		2	1	AX1314
	宗教社会学		2	1	AX1316
	比較宗教学		2	1	AX1317
	日本国憲法		2	1	AX1318
	現代社会と法律		2	1	AX1319
	現代社会と経済		2	1	AX1321
	企業と社会		2	1	AX1323
	国際関係論入門		2	1	AX1324
	国際政治学		2	1	AX1325
	国際社会問題		2	1	AX1327
自然理解	現代社会と教育		2	1	AX1328
	平和学入門		2	1	AX1329
	人権と社会		2	1	AX1330
	数学		2	1	AX1331
	数理科学		2	1	AX1332
	基礎統計学		2	1	AX1333
	実用統計学		2	1	AX1334
	化学		2	1	AX1335
	生物学		2	1	AX1337
	地球科学概論		2	1	AX1338
地球物理学概論		2	1	AX1339	
人類学		2	1	AX1340	
物理学		2	1	AX1341	
生命倫理		2	1	AX1343	

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1344
	日本思想史		2	1	AX1345
	中国文化入門		2	1	AX1347
	英米文化入門		2	1	AX1348
	文化人類学入門		2	1	AX1349
	世界の近現代史		2	1	AX1350
	世界史		2	1	AX1351
	考古学入門		2	1	AX1352
	陶芸論		2	1	AX1353
	陶芸演習		2	1	AX1354
環境理解	環境科学		2	1	AX1355
	生態学		2	1	AX1356
	地球環境学		2	1	AX1358
身体理解	健康の科学		2	1	AX1359
	スポーツの科学		2	1	AX1360
	スポーツ初級A		1	1	AX1361
	スポーツ初級B		1	1	AX1362
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
	スポーツ上級B		1	3	AX3302
地域理解	地域商業まちづくり学		2	1	AX1363
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1364
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1365
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1366
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1367
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1368
	上級まちづくり演習		2	2	AX2304
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
実用英語演習1			1	2	AJ2201
実用英語演習2			1	2	AJ2202
情報英語演習1			1	2	AJ2203
情報英語演習2			1	2	AJ2204
TOEIC英語演習1			1	2	AJ2205
TOEIC英語演習2			1	2	AJ2206
ドイツ語1			1	2	AJ2207
ドイツ語2			1	2	AJ2208
フランス語1			1	2	AJ2213
フランス語2			1	2	AJ2214
スペイン語1			1	2	AJ2219
スペイン語2			1	2	AJ2220
中国語1			1	2	AJ2225
中国語2			1	2	AJ2226
韓国語1			1	2	AJ2231
韓国語2			1	2	AJ2232
手話入門			1	1	AJ1302
手話基礎			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
情報概論			2	2	AZ2301
教職					
教職論			2	1	BQ1401
教育原理			2	1	BQ1402
教育心理学概論1			2	1	BQ1403
教育心理学概論2			2	1	BQ1404
教育制度論			2	1	BQ1405
特別活動論			2	2	BQ2401
教育の方法と技術			2	2	BQ2402
道徳教育論			2	2	BQ2403
生徒・進路指導論			2	2	BQ2404
教育相談			2	2	BQ2405

現代社会学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
専門基礎科目	社会学入門	2		1	GD1101
	現代社会入門		2	1	GD1301
	ミクロ経済学入門	2		1	GD1102
	マクロ経済学入門	2		1	GD1103
	法学入門	2		1	GD1104
	地域政策入門	2		1	GD1105
	社会リサーチ入門		2	1	GD1302
基幹科目	社会学理論		2	2	GD2301
	社会学史		2	2	GD2302
	地域社会学		2	2	GD2303
	産業社会学		2	2	GD2304
	家族社会学		2	2	GD2305
	社会心理学		2	2	GD2306
	文化人類学		2	2	GD2307
	社会政策論		2	2	GD2308
	経済社会学		2	2	GD2309
	現代経済分析		2	2	GD2310
	経済政策論		2	2	GD2311
	現代産業論		2	2	GD2312
	日本経済入門		2	2	GD2313
	民法入門		2	2	GD2314
	名古屋都市論		2	2	GD2315
	プロジェクト演習A		2	2	GD2316
	プロジェクト演習B		4	2	GD2317
展開科目	人間社会と心理				
	コミュニケーション論		2	2	GD2318
	メディア論		2	2	GD2319
	人間発達と経済学		2	3	GD3301
	労働社会学		2	3	GD3302
	経済社会と倫理		2	3	GD3303
	福祉社会論		2	2	GD2320
	現代社会と人間		2	2	GD2321
	ジェンダー論		2	2	GD2322
	ヒューマンサービス論		2	3	GD3304
	産業・組織心理学		2	2	GD2323
	集団行動の心理学		2	3	GD3305
	キャリアと人間発達		2	2	GD2324
	カウンセリング論		2	2	GD2325
	社会問題と心理		2	3	GD3306
	経済社会と企業				
	現代経済学		2	2	GD2326
	統計学		2	2	GD2327
	金融論		2	2	GD2328
	国際経済学		2	3	GD3307
	日本経済論		2	2	GD2329
	日本史概説		2	1	GQ1401
	外国史概説		2	1	GQ1402
	日本経済史		2	3	GD3308
	現代企業史		2	3	GD3309
	企業経済論		2	3	GD3310
	地域経済論		2	3	GD3311
	ものづくり経済論		2	3	GD3312
	起業経営論		2	3	GD3313
	社会的企業論		2	3	GD3314
	企業研究1		2	2	GD2330
	企業研究2		2	2	GD2331
	労働経済学		2	3	GD3315
	環境経済論		2	2	GD2332

選択必修科目

8分野から1分野を選択し、1と2を履修しなければなりません。

実用英語演習1・2	フランス語1・2
情報英語演習1・2	スペイン語1・2
TOEIC英語演習1・2	中国語1・2
ドイツ語1・2	韓国語1・2

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
展開科目	社会制度と政策				
	財政学		2	2	GD2333
	政治学1		2	2	GD2334
	政治学2		2	2	GD2335
	行政学		2	3	GD3316
	公共経営論		2	3	GD3317
	都市政策論		2	2	GD2336
	文化政策論		2	2	GD2337
	行政法		2	3	GD3318
	共生社会と法		2	2	GD2338
	社会生活と法1		2	2	GD2339
	社会生活と法2		2	2	GD2340
	商法		2	3	GD3319
	会社法		2	3	GD3320
	国際法1		2	2	GQ2401
	国際法2		2	2	GQ2402
	国際政治		2	3	GQ3401
	社会生活と地域				
	社会保障論		2	2	GD2341
	環境社会学		2	3	GD3321
	ライフコース論		2	3	GD3322
	情報社会論		2	2	GD2342
	生活誌の人類学		2	3	GD3323
	セルフプロデュース論		2	2	GD2343
	家族と法		2	2	GD2344
	地域社会と法		2	3	GD3324
	地理学		2	2	GQ2403
	地誌学		2	2	GQ2404
	自然地理学		2	2	GQ2405
	地域コミュニティ論		2	3	GD3325
	観光まちづくり論		2	2	GD2345
	ひとまちづくり論		2	2	GD2346
	都市デザイン論		2	3	GD3326
関連科目	スキル&社会調査				
	デジタルプレゼンテーション		2	1	GD1303
	データ表現技法		2	1	GD1304
	社会調査法1		2	2	GD2347
	社会調査法2		2	2	GD2348
	データ分析		2	2	GD2349
	現代社会調査		2	2	GD2350
	留学&インターンシップ				
	国際理解1		2	1	GD1601
	国際理解2		2	1	GD1602
	国際理解3		2	1	GD1603
	国際理解4		2	1	GD1604
	中長期インターンシップ1		2	2	GD2351
	中長期インターンシップ2		2	2	GD2352
演習科目	専門基礎演習	4		2	GD2101
	現代社会演習1	4		3	GD3101
	現代社会演習2	4		4	GD4101
	卒業研究	4		4	GD4102

卒業要件

NGL教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発		6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	14単位以上	
		教職※1		
		言語とコミュニケーション	8単位以上	
専門基礎科目 基幹科目	情報理解		2単位以上	80単位以上
	必修10単位を含む		32単位以上	
展開科目 関連科目	人間社会と心理、経済社会と企業、 社会制度と政策、社会生活と地域、 スキル&社会調査、留学&インターンシップ		32単位	
演習科目			16単位	
自由選択科目(フリーゾーン)※2				
合計				10単位以上 124単位以上

※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGL教養スタンダード科目、専門基礎科目、基幹科目、展開科目、関連科目、
オープン科目を問わない自由な選択

オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部に公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること ・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	制限なし
法学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2科目まで

単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部に、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。

なお、受付期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受付期間以外は一切受けつけできません。

- ③ 受付期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修はセメスターごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部 の時間割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。

他大学との単位互換

愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ（<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	- 各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格) - 履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上 - 上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上
履修期間	1セメスターまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1セメスターあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES(タイズ)」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ（http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムの単位互換

本学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に取り組んでいます。（P59 参照）その一環として「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に参加しており、参加大学間の相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換協定を結んでいます。

＜参加大学＞岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学

主に岐阜県を題材とした科目が中心となりますが、各大学の個性を活かした実践的な学びを通じて、社会人基礎力を向上させることができます。

詳細は、本学社会連携センターのホームページ（<https://www.ngu.jp/collaboration/>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部1年生以上。ただし1年生は秋学期のみとする。
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1セメスターあたり4単位、もしくは1学年あたり8単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。